

三原市立宮浦中学校第1学年 社会科学学習指導案

単元名：鎌倉幕府の成立

- 1 日 時 : 令和2年12月8日(火) 第5校時
2 場 所 : 1年2組教室
3 学年・学級 : 第1学年2組(26名)
4 単元名 : 鎌倉幕府の成立

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領社会歴史的分野のB(2)中世の日本 ア(ア)武家政治の成立とユーラシアの交流 について、イ(ア)武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)について中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。並びに(イ)中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。を受けて設定したものである。

本単元は、登場人物による人間味あふれるストーリーを生かして、生徒の学習への動機付けや見通しを促しやすい単元である。例えばイの(ア)に着目して、「武士による政治は貴族の政治とどのような違いがあるのだろうか」といった問いかけや、「平氏と源氏の政治手法を比べて、なぜ源氏の政治は世の中に広く受け入れられたのだろうか」といった課題(問い)を設定することで、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、課題について多面的・多角的に考察、表現できる単元となっている。

(2) 生徒観(調査結果からみる課題)

本学級は、第1学年で最も学力が定着している学級である。学年平均と比較すると、夏休み前に実施した学年試験では7.6点、1・2学期中間試験では5.6点、期末試験では5.2点高いという結果が出ている。特に思考・判断・表現力を問う文章記述問題で、男女ともに投げ出すことなく果敢に記述することで部分点を得ており、学習意欲の高さも見てとれる。一方、グラフや資料から情報を読み取る力を問う技能問題のみの平均点を見ると、全体平均と比べて大きく突出はしていない。今後も教材等資料を多く用いて、資料を読み取る練習をさせつつ、資料活用の技能向上に努めていきたい。

加えて本学級は、1学期当初、人間関係の形成に時間がかかり、授業内での発言も消極的でグループトークが深まらないことも多くあった。そこで、授業では様々な視聴覚資料を提示し、自由に感想を言い合える時間を多く取り入れたり、小さな発問を多く投げかけ、教員と生徒の会話のキャッチボールを意識したりするよう心がけてきた。現在では、互いの意見を自然にぶつけ合える雰囲気づくりができるようになってきている。今後も自分の思いをアウトプットする機会を意図的に設け、思考力の向上につなげていきたい。

(3) 指導観(指導改善のポイント)

本単元では、鎌倉幕府の政治の仕組みを通して、武士による政治が定着していく様子を理解させる。これまでの貴族の政治や院政、清盛の政治と比べながら、どこに成功の理由があったのかを考察させたい。単に歴史的事象を列挙しても、生徒は関心を持ちにくい。本単元は、登場人物の行動の意図や思惑を考察し、人間関係が激しく移り変わっていく様を自分ごととして味わえるようにすれば、生徒にとっても非常に興味が惹かれやすくなると思う。頼朝や義経の視点、そして御家人や北条氏の視点など、多様な見方から歴史的事象を捉えさせたい。そのために資料を多く提示し読み取らせつつ、ある立場になりきって意見をぶつけ合うなど、活動を通じて関心を高めながら、表現力と資料活用の技能を育成し、基礎的知識を定着させたい。

5 単元の目標と評価規準

単元の目標

○武家政治の特色について考え、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まったという中世の特色を理解することができる。

単元の評価規準

ア 社会的な事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的な事象について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・貴族と武士の立場、両方の視点に立ち、どのような作戦で政権を握ろうとしているか、自分ごととして考えようとしている。 ・鎌倉時代の文化が、国語の授業や日常生活等、他の場面でも身近に存在していることに気づき、関心が持てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・院政期、武士勢力がどのようにして政界に進出したのか、摂関政治とのちがいを明らかにして説明できている。 ・鎌倉幕府の政治の仕組みの特色を、それまでの貴族や平氏の政治と比べながら説明できている。 ・元寇後、鎌倉幕府がおとろえた理由を、御家人の状況や、幕府の対応を理解したうえで、元寇と関連づけて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から、鎌倉時代の武士の生活の特徴を、平安時代の貴族の生活と対比させながら読み取っている。 ・『蒙古襲来絵詞』から、日本軍と元軍の武器や戦い方のちがいや、御家人が幕府に恩賞を要求していた様子を読み取れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ鎌倉という場所を選んだのか、また鎌倉幕府の政治の仕組みが、どのような経緯で確立していったのか、理解している。 ・農業技術や商業・手工業の発達と関連して社会生活が変化し、向上したことが理解できている。 ・鎌倉文化や鎌倉仏教が武士や民衆を中心に広く浸透したことが理解できている。

6 指導と評価の計画

全5時間（本時は2／5）

次	学習内容（時数）	評価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	院と平氏の政治 ・院政 ・平氏の政治 課題の設定	◎	○			ア 貴族と武士の立場、両方の視点に立ち、どのような作戦で政権を握ろうとしているか、自分ごととして考えようとしている。 イ 院政期、武士勢力がどのようにして政界に進出したのか、摂関政治とのちがいを明らかにして説明できている。	授業ノート 自己評価表
2	武家政治の始まり ・源頼朝と鎌倉幕府 ・執権政治 情報の収集 整理・分析 まとめ・創造・表現		◎		○	イ 鎌倉幕府の政治の仕組みの特色を、それまでの貴族や平氏の政治と比べながら説明できている。 エ なぜ鎌倉という場所を選んだのか、また鎌倉幕府の政治の仕組みが、どのような経緯で確立していったのか、理解している。	授業ノート 自己評価表

3	鎌倉時代の人々の暮らし ・京都と鎌倉 ・武士と農民 ・農業と商業の発達			◎ ○	ウ 資料から、鎌倉時代の武士の生活の特徴を、平安時代の貴族の生活と対比させながら読み取っている。 エ 農業技術や商業・手工業の発達と関連して社会生活が変化し、向上したことが理解できている。	授業ノート 自己評価表
4	鎌倉時代の文化と仏教 ・鎌倉時代の文化 ・鎌倉仏教	◎		○	ア 鎌倉時代の文化が、国語の授業や日常生活等、他の場面でも身近に存在していることに気づき、関心が持っている。 エ 鎌倉文化や鎌倉仏教が武士や民衆を中心に広く浸透したことが理解できている。	ワークシート 自己評価表
5	元の襲来と鎌倉幕府 ・強大なモンゴル帝国 ・元の襲来 ・鎌倉幕府のおとろえ 振り返り			◎ ○	イ 元寇後、鎌倉幕府がおとろえた理由を、御家人の状況や、幕府の対応を理解したうえで、元寇と関連づけて説明している。 ウ 『蒙古襲来絵詞』から、日本軍と元軍の武器や戦い方のちがいや、御家人が幕府に恩賞を要求していた様子を読み取れている。	授業ノート 自己評価表

7 本時の展開

(1) 本時の目標

頼朝がつくった政治のしくみの特色が分かる。

(2) 観点別評価規準

- ◎イ 鎌倉幕府の政治の仕組みの特色を、それまでの貴族や平氏の政治と比べながら説明できている。
- エ なぜ鎌倉という場所を選んだのか、また鎌倉幕府の政治の仕組みが、どのような経緯で確立していったのか、理解している。

評価方法：授業ノート、自己評価表

(3) 準備物

歴史の教科書、授業ノート、歴史資料集、資料提示用モニター、PC一式

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 （評価方法）
導入	<p>○前時最後の問い「なぜ義経は鎌倉への帰還を許されなかったのか」について、評価表からいくつかピックアップする。 →答え（有力説）の発表をきく。」</p> <p>○本時の目標を確認する。 課題の設定</p>	<p>・視点を他人事から自分ごとへシフトさせるべく、語りで惹きこむ。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【本時の目標】頼朝がつくった政治のしくみの特色が分かる。 </div>			
展開	<p>○頼朝が全国に守護、地頭を置いたのはなぜか考える。</p> <p>○鎌倉時代の始まりと、残された強敵について知る。</p> <p>○義経の死について考える。 情報の収集</p> <p>○将軍頼朝が鎌倉を選んだ理由を考える。 集団思考1分 → 発表 整理・分析</p> <p>○御恩と奉公について意見交流する。 クラスを二分し、将軍側と御家人側に立場を分ける。それぞれ「相手にしてほしいこと」を考える。 集団思考2分 → 将軍から発表。のち御家人の発表。 → 封建制度について板書まとめをする。 まとめ・創造・表現</p> <p>○頼朝の死とその後、北条氏の執権政治について知る。</p> <p>○承久の乱を北条政子の演説から読み取る。</p>	<p>◆説明は可能な限りやさしい言葉で行い、全員の理解を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥州藤原氏を引き出す。 ・断定はしない。 ・理由は2つ以上あることを告げる。 <p>◆机間指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さなことも含め、とにかくたくさん出させる。 ・頼朝の直系血筋が途絶えたことに気づかせる。 ・力を取り戻すチャンスと見て出てくる後鳥羽上皇の存在は生徒から引き出す。 	<p>○なぜ鎌倉という場所を選んだのか、また鎌倉幕府の政治の仕組みが、どのような経緯で確立していったのか、理解している。 (発表, 自己評価表)</p>
まとめ	<p>○自己評価表を記入する。</p> <p>○次時に向けての発問をうけて、自分の考えを持つ。</p> <p>まとめ・創造・表現</p> <p>振り返り</p>	<p>・資料を提示し、政治の仕組みがどう変化したか、可視化して理解につなげる。</p>	<p>○鎌倉幕府の政治の仕組みの特色を、それまでの貴族や平氏の政治と比べながら説明できている。 (授業ノート, 自己評価表)</p>